

2018 年開幕前サポーターとの意見交換会 発表要旨と質疑応答について

日時 2月20日(火) 19:00~20:30

場所 大銀ドーム地下1階 406会議室

出席 代表取締役社長 榎 徹

フットボール事業本部本部長 小澤 正風

フットボール事業本部強化部長 西山 哲平

代表取締役社長 榎 徹

昨シーズンの順位は9位という結果でしたが、監督・選手はよくやってくれたと思います。一方で、今年はプレーオフに届かなかった悔しい思いをぶつけたいと思います。

観客数に関しては9000人の目標に対して、結果が8063人と1000人足りなかったのはフロントの責任と考えています。今年は観客目標1万人を目指し、達成したいと思っています。目標順位は6位以上ですが、もちろん6位でよしとはしません。高い目標と志でやっていきます。そのためにクラブ一丸としてやっていきます。

集客対策ですが、満員を目指すためには試合と楽しいスタジアム、そして情報提供・PRに力を入れていきます。試合はホームゲームで勝つことを重視します。昨年は負け越しては無いが引き分けが多いということもあり、走り負け無い、最後まであきらめない試合を行います。楽しいスタジアムでは、楽しさ、にぎわいの場をつくることを目的に、イベントや飲食を強化します。飲食スポットをスタジアム外にも配置し、よりおいしい食べ物や大分とお店の特長がでるようなものを協議しながら提供していきます。

情報提供はトリニータは知っているが、どんな選手がいてどんな戦い方をしているか、或いはニータンがトリニータのマスコットであることを知らない、このような層に対して、情報発信をしていきます。サポーターに対しては、情報を的確な形で早く伝えていきます。2回来ていただいている人は3回、5回の方は7回と少しでもリピート増やしていきたいと思っています。

長いスパンでよりトリニータを身近に感じてもらうためには地域活動は切っても切れません。学校訪問や地域の祭りへの参加に加え、今年は2つのコンセプトを作って地域と人を結び、健康(スポーツ)で色々な事業を展開していきたいと考えています。

プロのスポーツクラブが大分にあるのは何のためかを真剣に考え、チームがあることが大分の元気の助けに少しでもなる。地域に根付き、スポーツを観るのが日常の一部になるような活動を行っていきます。そして、ホームゲームでは、わくわくドキドキ、スタジアムに来れば非日常的な空間が味わえるようにしたいと思っています。

みなさんが一人でも知り合いを誘って選手の背中を押してください。今後ともよろしくお願いたします。

フットボール事業本部本部長 小澤 正風

私からはフットボール事業本部のアカデミーの考え方について説明させていただきます。今後5年先10年先のトリニータの事を考えると、育成型クラブとしてその組織をしっかりと確立し、整備・成長させていく必要があると考えております。その初年度として昨年、アカデミーのテーマとして掲げたのが『育成のスピードを上げる』という事でした。一つ上のカテゴリーで練習をすることにより選手に刺激を与え、成長を促していくという考え方です。従来から行っていましたU18の選手のトップチームでの練習参加に加え、昨年はU15がU16に、U12がU13等の一つ上のカテゴリーでの練習参加を実行しました。こうした取り組みをする中で、それぞれの選手が課題を見つけ、自分のチームに戻りまたその課題の修正に取り組む。こういった流れが出来始めたと思います。こういった取り組みを継続していく事が選手個々人の成長スピードを上げ、トリニータアカデミー全体の成長に繋がると考えております。

また、今年は新しい取り組みとして、提携している海外クラブへ育成年代の選手や、指導者の派遣なども考えていきたいと思っております。ベルギーリーグ1部のSTVVとの提携もその一つです。まだ具体的な話にはなっておりませんが、選手や指導者が直接現地で練習参加をすることや練習メニュー等を共有するは、大きな刺激となり間違いなく成長スピードを上げる事に繋がると考えています。

育成というのは時間がかかることです。しかしながらその過程の中で、1年1年しっかり育成に注力することが、結果としてトップチームのアカデミー出身の割合を高め、私共の企業理念であります『サッカーを通じて大分の活力に貢献する』チーム作りにつながると確信しております。

西山強化部長

私からはトップチームの方針について説明をさせていただきます。

クラブコンセプトである「諦めない、一体感、アグレッシブ、ハードワークをもとに観る人に感動を与える躍動感のあるサッカー」を提供したいと考えています。トップチーム及びアカデミーの全カテゴリーでこのサッカーを目指します。

具体的には、まず攻守においてアグレッシブに、そしてハードワークをし、サッカーのベースである闘う、走る、攻守の切り替え、球際というサッカーの本質の部分を大事にしたいと考えています。次にピラミッドで例えるとこのサッカーの本質という土台にボールを動かして相手を変化させ、その変化を観て変化したところを突くという判断と予測の要素を乗せるというイメージです。判断と予測を活かしたサッカーをやるにあたって、土台となる部分がしっかりしていないと戦術が成り立たないと考えていますので、戦術的な部分を追求すると共にこの土台をしっかり見つめて鍛えていきたいと考えています。

このコンセプトは基本的に昨年同様となりますが、今シーズンはここに「スピード」を加えたいと思っております。スピードとは、判断のスピード、予測のスピード、切り替えのス

スピード、奪った時の出ていくスピード等、全ての面でスピード上げたい。昨年まで継続して積み上げてきたものの質をさらに高めると共にスピードも上げていきたいと考えています。

それでは、このサッカーを体現する為、今シーズの編成にあたりどういったものが必要になってくるかといいますと、ポイントは3つ①一体感 ②継続性 ③課題の修正 だと考えました。

一体感に関しましては現場責任者として一番大事にした部分です。これを踏まえてスタッフの人選、選手の人選を行いました。

次に継続性に関しましては、片野坂体制3年目となり、土台であるサッカーの本質（アグレッシブ ハードワーク 闘う姿勢）そして判断と予測の部分は一定の成果を上げているという手応えがある中で、これを突き詰め成熟させていきたいと考えました。そこで継続性を保つために主力の慰留を行いました。2名のみ流出に留めることができ、その穴も補強で補えたと思っています。鈴木惇のところは丸谷、宮阪を補強し、上福元のところは既存の修行、高木、ムンは力を備えていますし、獲得した兼田も貢献してくれると考えています。継続をスムーズにしてくれる選手、継続という歩みの歩幅を大きくしてくれる選手という観点で補強を行いました。

課題の修正に関しましては、昨シーズン、得点を決め切れない、ちょっとした隙を突かれて失点を許すということが少なくありませんでした。特にシーズン終盤これらが原因で勝ちきれないゲームがありました。「相手に隙を与えない、相手の隙を突く」をテーマに課題の修正を行っていきたいと考えています。これにより負けを引き分けに、引き分けを勝ちに持っていき、少しでも多く勝ち点を積み上げたいと思っています。これら最後の細かいところを詰めることが出来れば昨年以上の勝ち点を積み上げることが出来ると考えています。また補強のもう一つのポイントとして、一人でなんでも解決できる選手をということではなく、課題の修正の手助けとなる選手、既存の選手と同じ矢印を持てる選手、同じ方向を向いて課題を修正できる選手ということで獲得しました。

補強コンセプトとしては、前述の継続性と課題修正の手助けとなるというのを前提に、「一体感を持てる選手、ハードワークできる選手、闘える選手」というのがコンセプトとなります。

次に獲得した選手の特徴になります。

兼田選手：シュートストップが得意な選手。昨シーズン、アビスパ福岡で14試合の出場実績があり、即戦力と考えています。

イム選手：名古屋からの期限付移籍で加入。昨シーズン夏に名古屋に加入し、多くの試合に出場しています。現在リハビリ中ですが、チームの助けになる選手になると考えています。

刀根選手：アカデミー出身。トップチームに在籍後、他クラブで経験を積んできました。

チーム愛も強く、チームの為に献身的にプレーしてくれると考えています。ボランチ、センターバック等様々なポジションでプレー出来る選手です。

那須川選手：3バックであれば、3バックの左もしくは左のウイングバック、4バックであれば左サイドバックというように主に左サイドが主戦場となる選手。経験と落ち着きあるプレーでチーム全体に落ち着きを与えてくれる選手です。

星選手：右利きではありますが、左サイドバック、中盤の左、と左サイド全般でプレーすることが多く、カットインからのシュートが特徴の選手。非常に運動量が豊富でサイドを活性化してくれる選手です。

山口選手：2016年に来てもらった際は昇格の手助けしてくれました。左足のキックの精度が高い選手で、クロス等でのチャンスメイクとサイドで起点になるプレーを期待しています。

宮阪選手：ボランチの選手。昨シーズン在籍していた鈴木惇に引けを取らない展開力がある選手。ゲームメイクも上手く、キックの精度とパワーを併せ持ち、ミドルシュートも武器とする選手です。

丸谷選手：2012年途中から2013年に在籍していました。運動量が豊富でその機動力は攻守においてチームの助けになってくれると考えています。一体感を体現してくれる選手です。

藤本選手：J3で2年連得点王。得点感覚を持ち身体能力が非常に高く、背後への飛び出しが特徴の選手です。守備意識も高い選手です。J2の舞台でもしっかりと得点してくれると考えています。

馬場選手：過去幾度も対戦し、非常に嫌な思いをさせられた選手。攻守に献身的で、ベテランらしくポジショニングが非常に上手い選手。多くのゴールの機会を演出してくれると思います。

以上新加入10名になりますが、全体的に昨シーズンより確実に選手の質・層は上がっていると感じています。それに伴いトレーニングの質も上がり、良い練習が出来ているという印象を持っています。プレシーズン期のここまで一定の手応えを感じています。

コンセプト映像の展開と解説

守備 → 攻撃

最後にお願いとなりますが、昨シーズン同様非公開練習をさせていただきたいと思っています。理由としましては戦術的な確認をしている為、戦術的な情報やメンバー等の情報が漏れないようにしたいと考えています。またリスタートの練習もしていることもありご理解をいただければと思っています。

また、トレーニングマッチの情報の扱いに関しましては、トレーニングマッチは基本的に公式戦翌日に行っていますが、狙いは試合に出なかった選手のコンディション維持だけで

はなく、試合が終わった翌日から次節の準備をしているわけですが、次節に向けてのシステム等戦術的な部分と選手の配置等の起用法の部分で極力情報を流したくないと考えています。クラブからの発信としましては試合結果と得点者のみで今年もやらせていただきたいと思います。これはお願いでしかありませんが、勝利の確率を上げる為ということでご理解をいただけたらと思います。

目標達成の為、昨シーズン勝ち点 4 差で逃した悔しさを晴らす為、現場・フロント一丸となって戦っていきます。みなさんの後押しが本当に私たちの力となっています。どうぞ引き続き力をお貸しください。よろしくお願いたします。

質疑応答

Q.練習場での対応について、選手の遠征時は体調管理面から選手はサイン、写真撮影等は断ってもいいのでは？また、通常時はローピングがないので代わりに白線等で対応できないか？

A.私どもとしては選手とサポーターがより近く接することができるのが原則ですが、この場で判断つきかねる所もあるので、より多くの方の意見を聞いたうえで対応します。

回答：榎

Q.開幕・最終ともアウェイなのはフェアじゃないのでは？代表戦があるので、最終戦がアウェイなのは理解するが、なぜ開幕がホームではないのか？

A.開幕戦・最終戦に関しては謝るしかありません。開幕戦ができないのは工事で間に合わないためです。希望として4つまでリーグに出せますが、前年は開幕2試合がアウェイのところを今シーズンは県との交渉で1試合で収めました。最終戦は代表戦があることが事前情報としてあり、ピッチの状態や興業的にも厳しいだろうという判断でアウェイとしました。来年度も開幕はアウェイだと思いますが、最終戦はホームとなるように努力します。

回答：榎

Q.病院にも慰問に来てほしい。シャムスカ監督時には来てくれていたし、ラグビーのチームも行っている。トリニータが来てくれないのは寂しい。

A.病院や高齢者施設への訪問も広げていきたいと思えますし、そこからサポーターも増やしていきたいと考えています。

回答：榎

Q.最終節が土曜日なのはリーグの都合か？

A.いくつかの試合はJリーグの指定で、開幕閉幕もリーグの指定です。なぜ土曜日かはこちらでは理由は把握していません。

回答：榎

Q.海外提携で具体的な計画の有無はあるか？

A.現在、具体的な計画は立てられていませんが、今回のSTVVとの提携を意味あるものにするためにも、具体的に実行に移していく事が大事であると考えています。あくまでもこちら側の一方的な希望ですが、早い段階でトリニータのアカデミーの選手や指導者を派遣し、勉強させて頂ければと思っています。

回答：小澤

Q. 西山強化部長の説明を受けて、ベースを固めるのはいいが、大分の選手はパス・トラップ・シュート・クロス精度が低いと思う。昨シーズンは後手に回ることが多かったし、いい試合があっても勝てなかった。そこの精度を上げてほしい。

TV インタビューで監督の目標がプレーオフ圏内と言っていたが間違いないか？圏内で終わりか？

A. 6位以上を狙うということです。1位2位も含めてのことです。

回答：榎

Q. (上記回答を受けて) J1 に上がるには金が必要。J1 に上がった時に戦えるか？戦えない。

ではその状況で営業サイドはどんな活動をしたか？なされるのか？マスコット総選挙のPRもうまくプロモートできてなかったのでは？HPでは目立たなかった。どんどん営業はかけてほしい。営業できるところはたくさんあると思う。

A. 経営面で選手の平均年棒が成績と比例するのは事実です。資金力がない限りとどまることができないのも事実です。トリニータは J2 でも真ん中か、中の下で決して恵まれているとは言えません。しかし、スポンサー営業の部隊を増やし、全員営業全員広報で取り組んでいます。レプユニシかり、シーパスしかり。各部門に目標数値をつくって、それぞれ努力している状況です。やみくもに営業してもだめだと考えます。

東京商工リサーチ等と契約し、データをもらい、ターゲットをかけてやっています。東京事務所の開設もその一環で、大分の地域振興、障がい者スポーツ振興も絡めて営業活動をやっていきます。みなさんも企業情報を教えてください

ニータンに関してはもっとみなさんに知ってもらいます。トリニータのマスコットだと知らない層に対して集中的にプロモーションをかけていきます。トリニータ=ニータンと認識してもらい、営業シンボルとして活用します。写真集を出す予定もあるのでぜひ買っていただきたいと思います。

回答：榎

A. 先ほど説明致しましたアグレッシブ、ハードワーク等ベースの部分の中に、技術的なことも含まれるという認識でいます。基本技術の向上は常々認識しており、監督やスタッフが日々成長を促すアプローチしています。時間がかかる面もありますが、継続して取り組んでいきます。

J1 で戦うにはお金も重要なファクターだと考えていますが、それだけではつまらないと、お金以外の部分で戦える工夫をしたいと思っています。2013年の昇格時は残念ながら1年での降格を余儀なくされましたが、その時の経験を活かせればと思っています。まずはベースとなる既存選手の成長を促し、そこにポイントでの補強というかたちになりますが、その補強のセレクトを慎重にやりたいと考えています。J1 で試合に出ていないベテラン選手というより J2 でしっかりシーズンを通してプレーしている選手の方が良いという判断もあるのかと。今回の J3 得点王の藤本の補強のようなやり方もあります。希望

を持っていただきたいと思っています。

回答：西山

Q. Twitter・facebook・instagram の告知でトップチーム以外のアカデミー、レディースの告知もしっかりしてほしい。レディースは入れ替え戦等の告知もなかった。試合前しか告知がないので発信してほしい。

チラシ配り昨年されていない理由は？ サポーターは協力するのでやらないとダメ。地道な努力をしてほしい。

スクールに関して、キッズは 1630 スタートなので送れない。送り迎えができない人たちは近くや安いサッカースクールに流れる。好きだから通わせてるけど、トリニータのスクールに魅力はあるか？冠を外すと差別化がないのではないか？

魅力的な運営基盤であるスクールをきちんとしないと、優秀なコーチも取られてしまうのでは？トリニータしかできないスクールづくりをしてください。

A. SNS の告知はしっかりと行います。チラシ配りについては去年もやりましたが、回数は減っています。理由はあまりにも効果がないと判断したためです。効果とはやっつてることを PR するのが効果で、集客に繋がっていないのが現実ですが、サポーターと一緒にやるとか工夫をしてやれることができるか検討します。

回答：榎

スクールの送迎に関しては課題として認識はしています。但し、弊クラブは送迎用にマイクロバス等を保有しているわけでもなく、コーチ陣もスクール指導以外にホームタウン活動や様々の業務を行っているため、現状厳しい状況だと言えます。いかに、スクールに来やすい環境を作るかは課題として認識はしているものの、具体的な答えは出せていない状況です。

トリニータならではの特長を見出す事は現在考えている最中です。人工芝のグラウンドでのスクール活動等、環境面では恵まれている場所もありますが、それ以外の要素での差別化となると出せていない状況です。

スクールの運営に関しては、我々も過渡期に来ていると考えており、より特長を出すために、普及活動やホームタウン活動に注力して特長を出して行くか、育成としての位置づけを更に強めていくか、方向性を考えているところであり、また打ち出していきたいと考えています。

回答：小澤

Q. 今シーズン、⑦自由席という表記の席がある。この席は去年はトリニータシートで、アウェイの人が座ってるという苦情があり、それを受けての名称変更だと思われるが、公式サイトや試合ガイド等に自由席という表記はあるが、ホームアウェイ両方のサポーターが座る場合があるという記述がない。

このままだとボランティアに苦情が寄せられる可能性がある。

A.早急に記載をします。 スタンドにも記載します。

回答：榎

Q.過去の在籍者に対する対応として、記念試合、慰労イベント、MDP や HP への掲載等は考えられないか？

A.HP の件も含め即答はできませんが、要望として受け止め、検討します。

回答：榎